

【必修】小学校の最新教育事情

【選択必修】小学校の現代的な教育課題への対応

- ◆期日 【必修】小学校の最新教育事情 平成29年8月7日(月)
【選択必修】小学校の現代的な教育課題への対応 平成29年8月8日(火)
- ◆主な対象 小学校教諭
- ◆定員 50名
- ◆会場 たまプラーザキャンパス
- ◆応募期間 (仮申込) 平成29年4月17日(月)10:00~同4月18日(火)23:59
- ◆受講料 1万円

【必修】小学校の最新教育事情

- ◆時間数 6時間【必修領域】「全ての受講者が受講する領域」

◆講習内容

小学校教育に焦点をあてて、「学校を巡る近年の状況変化や教員としての子ども観、教育観についての省察」「子どもの発達に関する脳科学、心理学等、特別支援教育に関する最新の知見」の2事項について、学習指導要領改訂や生徒指導提要作成の内容を踏まえながら、講義を行う。教育行政および学校教育・現職研修の実務経験があり、また教育学・教育心理学の研究者である講師陣により、小学校教育が直面している諸課題と対応策について見識を深めることをねらいとする。

◆担当講師

柴田 保之 國學院大學人間開発学部教授

田沼 茂紀 國學院大學人間開発学部教授

◆シラバス

講義名	子どもの発達に関する最新知見と特別支援教育
担当講師	柴田 保之
講義概要	子どもの発達をめぐる現代の大きな課題の一つは、発達障害の問題である。これは、特別支援教育の始まりとともに、通常学級に在籍する特別な教育ニーズをもつ子どもの問題として顕在化し、特別支援教育の一環として取り組まれるようになってきものだ。発達障害という概念はすっかり定着したが、かつて障害があるとはされなかった子どもたちが新たに名づけられるようになったものであり、子ども理解においてメリットとデメリットの両面を含む概念である。講義では、発達障害の子どもをどうとらえ、どう関わっていくのか、発達障害のある子どもをまきこんだ学級づくり等について、障害者権利条約、インクルーシブ教育との関連等も見据えながら、心理学的知見だけでなく、現場の優れた実践に学びつつ明らかにしていく。そして、さらに、広く障害について理解を深めるために、私自身が関わっている事例を通し、障害に関する最新の知見を紹介し、障害そのものの意味を問い直す場としたい。
評価方法	

講義名	小学校の最新教育事情：現代の教育諸課題と新学習指導要領
-----	-----------------------------

担当講師	田沼 茂紀
講義概要	<p>本講習では今日の小学校教育を取り巻く諸課題について概観し、それら諸課題の理解を進めながらその解決に向け、実践的な視点から次期学習指導要領実施に向けた各学校での取り組みについて考察していく。</p> <p>①社会構造の変化に伴う学校教育の諸課題について（社会構造の変化、グローバル化、求められる資質・能力）</p> <p>②社会の変化と教師に求められる役割（教師への期待、教師としての専門性、教育を支える実践的指導力）</p> <p>③「社会に開かれた教育課程」を実現するために学び続ける教師の研修（チーム学校、OJTとしてのメンター制度）</p> <p>また、次期小学校学習指導要領の理念と方法論的な視点、各学校における教育課程編成方法の在り方等についても言及していく。特に、全学年で先行実施される「特別の教科 道徳」、さらには今後高学年で創設される「外国語科」、中学年でも実施される「外国語活動」推進に向けた指導計画や指導法改善の在り方等についても検討を進めていく。</p>
評価方法	①受講者が学びを通してどのような自己課題を発見することができたのか、②今後の実践に向けてどのような知見を得ることができたのか、この2点を論述試験として実施する。なお、論述試験は本講義の最後に時間を設定して行う。

【選択必修】小学校の現代的な教育課題への対応

◆時間数 6時間【選択必修領域】「受講者が所有する免許状の種類又は教育職員としての経験に応じ、選択として受講する領域」

◆講習内容

小学校教育に焦点をあてて、「学校を巡る近年の状況の変化」「学校の内外における連携協力についての理解」について、多様化・複雑化する現代的な教育課題に対して、教員がどのように対応すればよいか実践的知識と技能について解説する。特に本講義では、学内外の連携や多様な子どもに対する生徒指導・教育相談に焦点を当てて、学習指導要領改訂や生徒指導提要の内容を踏まえ、講義を行う。

◆担当講師

小笠原 優子 國學院大學教育開発推進機構准教授

渡邊 雅俊 國學院大學人間開発学部教授

◆シラバス

講義名	学校の内外における連携協力についての理解
担当講師	小笠原 優子
講義概要	<p>社会が変化する中、子どもたちを見守り育てる環境づくりのためには家庭や地域との連携協力の充実が必要である。保護者や地域社会の学校教育に対する関心や要求をとらえ、学校と地域が共に子どもたちを育てる教育の果たす役割が大きくなっている。このような状況の中で、どのように子どもたちのための環境づくりを行い教育の質の改善や説明責任を果たしていくべきか、次の内容について考える。</p> <p>(1) 学校をめぐる「危機」の状況と学校の危機管理</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・校内外の安全確保に関する内容 ・情報セキュリティなど近年の状況を踏まえた内容 <p>(2) 問題に対する組織的対応の在り方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校組織の一員としてのマネジメントマインド形成、校内体制の確立、保護者・地域社会との連携 ・対人関係、日常的コミュニケーションの重要性 <p>本講習では、様々な教育課題を抱える学校の現状をとらえ、取り組みの実践例から学びながら学校の課題解決に向けての対応についての理解を深めたい。</p>
評価方法	「学校の連携協力」についての講義から理解した内容、学校現場における実態と照らし合わせ考慮すること等について小テストを行う。

講義名	「気になる」子どもの理解と対応
担当講師	渡邊 雅俊
講義概要	<p>本講義の目的は2つあります。1つ目は、現在の学校が直面する課題として、生徒指導が難しいと感じる「気になる子どもと親の理解と対応」の基本的な考え方について理解することです。「気になる」子どもとは、保育士や教師が「関わり難い」「指導し難い」と感じる教育相談が必要な子どものことです。「教師の指導に反抗する」「友だちとの関わりが苦手」「感情のコントロールの苦手」「学習の躓きや学習動機の低さ」といった子どもたちの背景を解説します。2点目は「気になる子どもと親」を支援するための「教育カウンセリング」の方法について理解することです。「気になる」子どもとの信頼関係の形成には、教育カウンセリングが有効です。日々の教育実践をふり返りながら、「気になる」子どもの支援について一緒に考えていきましょう。</p>
評価方法	レポート